

新任教師がぶつかる壁 —その背後に見えるもの—

浜田博文（筑波大学）

1. 新任教師・若い教師の困難状況

(1) 時代を超えて「ぶつかるべき」壁

- ① 教員実務の幅広さと不確定性（地域性や子どもの実情によって規定されるものの大きさ） ←→ 専門的自律性の必要性
- ② いわゆる「実践的指導力」の未熟さ…授業と学級経営・生徒指導の実践性

(2) いまの時代に固有の「ぶつかってしまう」壁

- ① 対児童生徒の困難さ…状況の複雑さ、理解の困難さ、など
- ② 対保護者の困難さ…保護者要求の多様性、家庭生活の困難さ、地域紐帯の脆弱さ、など
- ③ 「失敗」に対する寛容度の低下…さまざまな「評価」のまなざし

2. 問題背景の多様さと複雑さ—経験者教員の減少と学校の小規模化など

(1) 大量退職・大量採用期が進行中の地域

- ① 競争率・採用水準の低下
 - * 「新採用教員の中には、早めにやめた方がよい人が一定程度存在している」
 - * 「自分が新任の頃は、わからないからとにかく先輩に聞いた。でも今の若い教師は…。」
- ② 同一校内における年輩者の不足と臨時任用教員の多さ
 - * 指導教員適格者の不足
 - * 臨時任用を希望する教職経験者の不足（未経験臨任者の多さ）
- ③ 同一校内における若年教員の多さ
 - * 技術・経験を伝えうる同僚関係の不足

(2) 今後、大量退職が予想される地域

- ① 都市部の中規模以上の学校では上掲の同様の課題（？）
- ② いわゆる地方では、さらに学校の小規模化が進行（？）
 - * 同一校内部での同僚関係の組みにくさ

3. 問題と課題

(1) 同一校内での新任教師を育てるリソースの脆弱さ

- * 一定規模の学校では同年代同僚関係はできるが、ロールモデルや助言的關係は弱い
- 複数以上の学校を単位とした支援の必要
- 但し、拠点校指導教員制度は既存の学校体制を弱めることも

(2) 「若い教師」期を見守る環境づくりの必要

- * 現行初任者研修の性急さと初任者の忙しさ
- 1年目に様々な「失敗」が許される（フォローできる）ためのしくみ…2～3年目に自分の課題意識をもって学べる
- * 「昔は子どもとたくさん遊んで、失敗しながら身体で覚えていった…。」